

外国語科「コミュニケーション英語Ⅱ」授業実践紹介

授業者：岸田 典子

学年：2年（普通科 文Ⅱ・キャリア探求科）

単元名：旅行代理店の社員になりきり、修学旅行のプランを立て、プレゼンしよう。

単元のねらい（7つのチカラ：考える力、自立する力、コミュニケーション力）

- ①修学旅行の4日のプランのうち、1日のプランを考えることができる。
- ②与えられた場面設定を踏まえて、訪れる場所や移動手段など、自分で考えることができる。
- ③聴き手が行きたいと思えるような魅力的なプランをプレゼン形式でクラスに発表できる。

単元の流れとパフォーマンス課題（3と4）

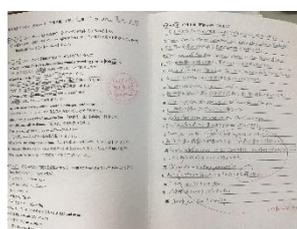
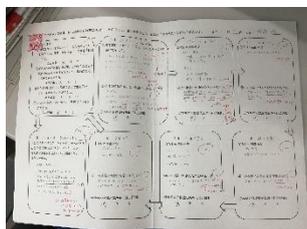
1.（1時間目）修学旅行で東京を訪れることが難しいなか、まず生徒には修学旅行について、行きたいか行きたくないかなど率直な気持ちを日本語で書かせた。その後、「もし東京以外で修学旅行に行くならどこに行くのがよいか」ということについて考える時間を設けた。

2.（2時間目～3時間目）iPadを用いて、それぞれに訪れてみたい県や地域について調べ学習を行った。行き先を選ぶ際、必ずコロナの状況についても考慮することを伝え、訪れる施設等はコロナ対策がされていることを条件とした。行き先が決まった生徒から、本来の修学旅行の4日のうちの1日のプランを考えさせた。

3.（4～5時間目）まず、一日のプランを時系列に沿って日本語で書いた後、英語に直す作業を行った。その後、原稿をもとにkeynoteを用いて各自プレゼンのスライドづくりを行った。

4.（6～7時間目）完成した原稿とkeynoteを用いて発表練習を行った。その後、クラスの前で一人ずつプレゼンを行った。

（左）OPPシート （右）生徒が作成した原稿例



パフォーマンス課題の評価

全日程のうちの何日目についてプランを考えるかを各自が自由に選び、英語で原稿を作成する。作成した原稿とkeynoteを用いて、クラス全体に向けて英語でプレゼンを行う。作成した原稿とプレゼン、それぞれについて、2ページ目にあるようなルーブリックで評価を行った。

単元を通して身につけてほしいこと

単元の導入時に生徒には、一からプランを立てる中で、聴き手が「行きたい」「おもしろそう」と思えるような魅力的なプランを目指すよう、呼びかけた。何一つ形のない状態から、各自が自由に行き先を決定し、移動距離や交通手段、その土地の観光スポットなども考慮して予定を立てる中で、主体的な考え方を身につけてもらいたかった。そのうえで、自分が考えたプランは英語ではどのように表現されるのか、という視点から英語の発表原稿作成に取り組ませた。英語で文を書くということは、多くの生徒にとってハードルが高いことであるため、プラン構成に使用することができる表現を前もって発表例として生徒に配布した。与えられた文を用いるだけでなく、自分の伝えたい内容は英語でどう表現するのか、と質問にくる生徒も多いた。「これって英語でどう言うの？」という感覚や、「意外と自分が知っている単語で言いたいことを表現できる」という感覚こそが、英語を学習するうえで大切であると感じており、今回の単元を通してそれぞれの生徒から引き出すことができたと思う。

観点	達成度 0	達成度 1	達成度 2	達成度 3
Ⅱ 外国語表現の能力(話すこと)	日常的な話題や社会的な話題について、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを伝え合うやり取りや発表ができない。	日常的な話題や社会的な話題について、辞書や教師からの多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを伝え合うやり取り・発表をすることができる。	日常的な話題や社会的な話題について、辞書や教師からの多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを、根拠を含めて発表したり、伝え合うやり取りを続けることができる。	日常的な話題や社会的な話題について、辞書や教師からの支援を活用すれば、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを、根拠を含めて詳しく発表したり、伝え合うやり取りを続けることができる。
Ⅱ 外国語表現の能力(書くこと)	日常的な話題や社会的な話題について、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを伝える文章を書くことができない。	日常的な話題や社会的な話題について、辞書や教師からの多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを伝える文章を書くことができる。	日常的な話題や社会的な話題について、辞書や教師からの多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを、根拠を含めて伝える文章を書くことができる。	日常的な話題や社会的な話題について、辞書や教師からの支援を活用すれば、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを、根拠を含めて伝える複数の段落から成る文章を書くことができる。

- ①パフォーマンス課題に対する評価（30%）
- ②授業の振り返りシート+その他の課題+小テスト（20%）
- ③定期考査による評価（50%）